令和２年度「授業力自己評価表」に係る調査研究

「児童生徒理解の力」を高める
初任者研修の在り方

大分市教育センター　研修担当班

大分市における初任者研修

大分市では、「児童生徒理解の力を基にした実践的指導力の育成」をテーマに初任者研修を実施しています！

※本資料における写真は、過去３年間の研修を一部抜粋して掲載しています。

大分市における初任者研修

「児童生徒理解の力」に係る
主な研修講座（一部抜粋）

生徒指導

〇講義「生徒指導の基礎・基本」
〇講義・演習「児童生徒の問題行動への対応」

〇講義・演習「学級担任が行う教育相談」

教育相談

大分市における初任者研修

「児童生徒理解の力」に係る
主な研修講座（一部抜粋）

特別支援
教育１

○講義「発達障がいの特性の理解と支援の在り方」

特別支援
教育２

○講義「通常の学級における指導や支援の実際」
○協議「一人一人の教育的ニーズに応じた支援の在り方」

大分市における初任者研修

児童生徒理解の力を高める１７項目

スマイルCheck

（自己省察カルテ）

―児童生徒理解力を高める17項目―

領域		番号	項目
教師と子どもの関係	学習の中で	1	学級の子ども一人一人の苦手な教科や得意な教科を把握している。
		2	自分が指導する子ども一人一人のつまずきの状況を把握している。
		3	自分が指導する子どもの考え方や発言の傾向をつかんでいる。
		4	授業中、子どもの想定していない発言に対応できている。
	生活の中で	5	日頃から子どもと楽しく接したり、いろいろな活動を通して触れ合ったりしている。
		6	自分に不安や不安定な気持ちがあってもそのことに影響されることなく子どもに対応している。
		7	子どもの友達関係を把握している。
		8	子どもたちからいろいろな情報を得ている。
教師自身		9	子どもの気持ちを理解する感受性をもっている。
		10	子どもとの接し方（適切な手立てや声のかけ方、言葉遣い等）を意識している。
		11	子どもの状況を判断するための客観的なデータを持っている。
同僚との関係		12	日頃から職員室で同僚とクラスや学年の子どもの話をしている。
		13	同僚から子どもへの指導方法等を学んでいる。
保護者・地域との関係		14	子どもの様子（頑張っている点や気になる点等）を伝えるために家庭訪問等を行っている。
		15	保護者との連携を大切にしながら家庭での子どもの様子の把握に努めている。
		16	勤務する学校の校区のことについて知っている。（地区の行事や文化財等について）
		17	学校や地域の行事等で地域の人とのコミュニケーションを図っている。

大分市の初任者研修では、左の「児童生徒理解の力を高める１７項目」の中から自己課題を焦点化し、校内研修や日常の教育実践を通して課題解決に向けた取組を継続して行っています。

また、校外研修においては、具体的な取組や管理職、指導教員等から指導を受けた内容等について情報共有したり、アドバイスを受けたい内容等について協議を行ったりしています！

大分市における初任者研修

**児童生徒理解の力を高める
１７項目**

スマイルノートからみえてきたもの

1　はじめに

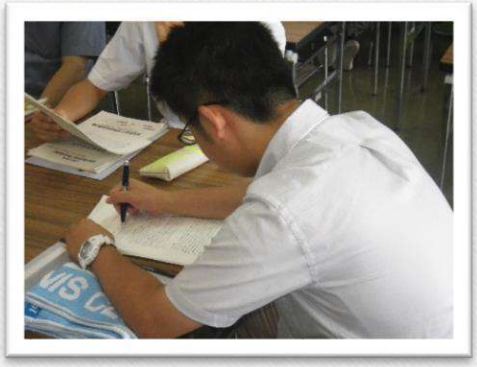
私は、１７項目の中で「子どもの友達関係を把握している」に焦点をあててみたいと考えた。子どもたちと関わる中で、一人一人のことが少しずつ見えてきているが、児童同士のトラブルが多いことが目立つと感じたからだ。特にＡ子は、転入生のＢ男とトラブルになることが多く、言い争いをすることが増えてきていた。さらに、Ａ子はＢ男だけでなく、クラスの児童とトラブルになることがあり、休み時間に泣きながら教室に帰ってくるようなこともあった。Ａ子だけでなくクラスのみんなが安心して過ごせるようになるために児童生徒理解の力を高めていきたいと考え、この項目に絞って考えていく。

2　子どもとの関わりと初任者研修で学んだこと

まず、Ａ子の話とＢ男の話をよく聞きとり、どうしてトラブルになっているのかを把握するように努めた。拠点校指導教員の先生に相談したところ「両者の意見をすり合わせて事実確認を行う。教師から『いけない』と決めるのではなく、自分から感かったところを発言させ、謝るようにすると良い」「前の学年の先生にどんな児童だったか聞くと良い」等を助言していただいた。Ａ子のことだけでなく、クラスの子がトラブルになった際、この助言を意識して、自分が悪かったところや相手にどうしてほしいかを伝えられるように指導できるようになった。また、前の学年の先生に相談することで、児童の対応の仕方や席替えの工夫など様々なアドバイスをいただけた。Ａ子は、トラブルだけでなく授業中の離席も増え、教室を飛び出すこともあったため、SSWの先生や特別支援コーディネーター等専門の先生に相談をした。そうすることで、特性を持っている子の対応やクラスの雰囲気づくりのアドバイスを頂けた。注意するのではなく、穏やかに、できているところを褒めるとよいということを実践するようにした。

3　成果と反省

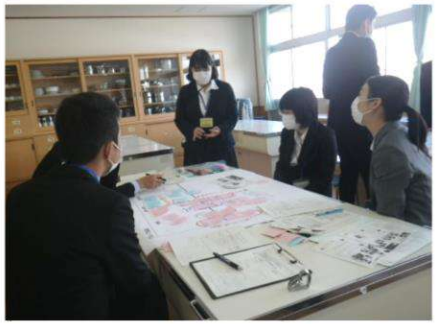
１学期は、初めて教壇に立ち、教員がどれだけ大変な仕事であるか身をもって理解した。実習等で子どもとの関わりはあったが、実際に自分が担任をして学級経営をしていく中で、分からないことが沢山あることを痛感した。そんな中たくさんの先生方に相談して助言をいただき、実践することができた。大きな変化はないが少しずつ変わっていっていると感じる。しかし、１学期はＡ子にとってとてもきつい思いをたくさんさせてしまったと思う。２学期からはＡ子に寄り添って、困りや辛さを理解していきたい。そのためにまずはできているところをたくさん認めていくことを徹底する。また一番大切なことは「分かりやすい授業」だと考えるため、授業づくりにも力をいれていきたい。授業中においても多くの認める言葉かけをしていきたいと考える。そしてどの子も安心して過ごせる学級にしたい。

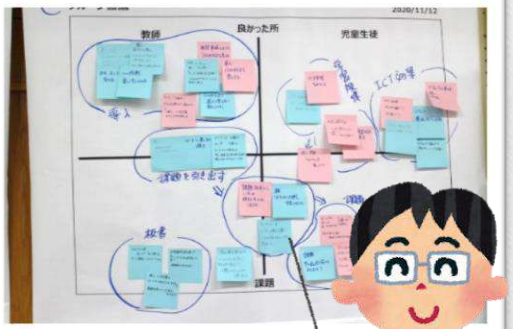


初任者研修では、児童生徒理解に係る協議を年間複数回にわたって実施しています。中間報告やまとめの回には、左のような実践をまとめた資料等を用いて、自己の取組を振り返り、今後の方向性等について考える時間を確保しています。

大分市における初任者研修

授業研究





初任者研修では、１１月の「授業研究」において、「児童生徒理解の力を高める１７項目」の取組で培った「子どもを“みる”力」を基に子どもの学びの姿を記録し、授業後の協議では、記録した子どもの学びの姿から教師の手立てが有効であったか等について、グループ協議を行っています。

初任者研修における「児童生徒理解の力を高める１７項目」の取組から分かる「授業力自己評価表」を通じた「児童生徒理解の力」の変容について

「児童生徒理解の力」の変容 ～令和元年度初任者結果（一部抜粋）～

事前と事後を比較すると、顕著な増加が見られる項目

1　発達の段階
児童生徒の思考スタイル、コミュニケーション等を把握している
児童生徒の発達の段階を把握している

2　背景、環境、家庭理解
児童生徒の家庭状況や生育歴、進路希望等を把握している
児童生徒の言動に込められた意味等を理解している

3　レディネス、学習の定着
児童生徒一人一人のつまずきを把握している

※上記の評価項目については、初任者の「児童生徒理解の力を高める１７項目」の領域のうち、特に「教師と子どもの関係」や「保護者との関係」との関係性が強い

「児童生徒理解の力」の変容 ～令和元年度初任者結果（一部抜粋）～

肯定率が２５％増加している項目

１　発達の段階
　児童生徒の思考スタイル、コミュニケーション等を把握している
５　レディネス、学習の定着
　児童生徒一人一人のつまずきを把握している

「思考スタイル等の把握」及び「つまずきの把握」については、授業構想や授業展開において特に重要となる項目であり、初任者の年間を通した授業実践や校外研修（教科等指導、授業研究等）における学びの蓄積が反映されたものと考えられる

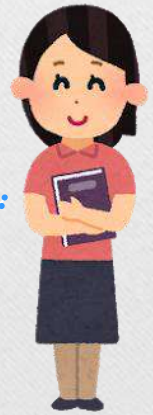
　初任者研修における「児童生徒理解の力を高める１７項目」の取組は、児童生徒理解の力を高めるとともに、初任者の授業力向上にもつながっています！

初任者の声 ～令和元年度初任者研修実施後受講者アンケートから～

児童生徒理解の取組では、たくさんの話合いを通して、自分ができていないことや「これならできそう」など参考になることがたくさんあった。

児童生徒理解の取組は、今後も続けていきたい。１７項目の視点は、教師としての活動の基盤になると改めて強く感じた。

自分と同じ悩みをもった人と意見を交換し合うことができ刺激になった。同じ悩みでも、取組は全く異なり、早速自分も取り入れてみようと思った。



校種の違いがあっても「子どものため」に力を尽くしていることは同じであると感じた。また、子どもとの信頼関係の築き方や学級経営方針など教師の数だけあるので参考になった。

　大分市教育センターでは、大分大学と連携し、「授業力自己評価表」に係る調査研究を行っています。
　各学校において、校内研究等で活用している事例がありましたら、校務用ネット（Te-Comp@ss）にて研修担当班宛てお知らせください！